

「舞鶴版Society5.0」実現に向けた多様な連携①

オムロン ソーシャル ソリューションズとの連携

【取り組みの背景】

舞鶴市 として

地方が抱える社会的課題を、最先端技術で解決できないか？と着想してオムロンに依頼



オムロン (OSS*) として

2030年を見据えて、スマートシティ化で何ができるか？をコミュニティの未来像からバックキャストで考えたい *OSS:オムロンソーシャルソリューションズ(株)

舞鶴市とオムロンとが連携し、舞鶴市を具体事例として、2030年に向けて日本の地方が抱える課題解決を検討することに

アウトプット

舞鶴市：「地域が抱える課題および解決策」の全体像

オムロン：上記で見出された事業機会の具体的な事業内容・戦略

【舞鶴市・オムロン 地方都市の課題解決へ向け連携協定締結】

地方都市が外部環境に依存せず、自ら稼ぎ、安定した地域経済を実現することで、持続可能な社会「自律社会」を目指し、舞鶴市とOSSが共同で取り組む

<連携協定内容>

1. 社会と環境と経済が調和し持続可能なまちづくり（再生可能エネルギー自給率向上への挑戦）
2. 完全キャッシュレス化を推進することで「市民の利便性」向上と「市域内の経済」の活性化
3. マッチングにより人々が快く助け合う街（共生社会）の実現
4. ビッグデータ+AIに見守られた安心安全な街の実現
5. 若者がチャレンジできる環境づくり、移住定住の促進



【舞鶴市とOSS 共通の想い】

 <p>舞鶴市 MAIZURU-CITY</p>	
<p>便利で心豊かに暮らせる まちづくりの推進</p>	 <p>理念・ビジョン</p>
<p>舞鶴版Society5.0の実現</p>	 <p>戦略</p>
<p>自治体運営における 経営的な視点とリーダーシップ</p>	 <p>実行力</p>
	<p>SINIC理論 『自律社会』の創造 (社会の自立・個人の自立・共生)</p>
	<p>事業ノウハウ</p> <ul style="list-style-type: none"> ●交通 ●エネルギー ●キャッシュレス ●モニタリング ●共生
	<p>新規事業の創造・推進体制 コミュニティソリューション事業本部 イノベーション推進本部</p>

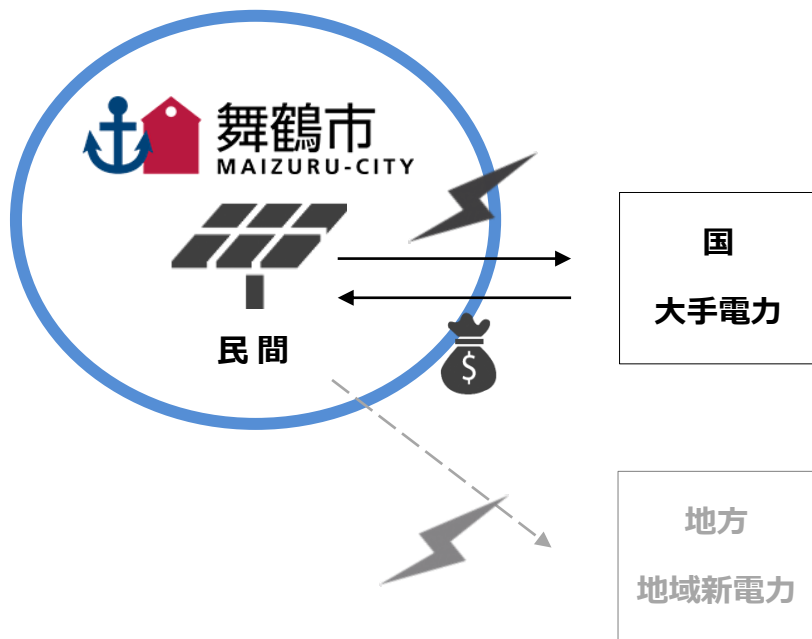
【舞鶴市×オムロンで取り組む具体的な5テーマ】



現在

再生可能エネルギーが域外へ流出する

再エネ導入は進みつつあるが、固定価格買取制度（FIT）を利用しており、再エネは域外へ流出。



<固定価格買取制度認定量>
約10,300kW（平成29年3月時点）

2030年

再生可能エネルギーを
軸にした地域のエネルギーシステム

再エネで域外の支出を抑え、域内経済循環を
起こし地域経済の自立をもたらす



公共施設での再生エネルギー利用率：**100%**

現在

外国人旅行者（インバウンド）

舞鶴市：クルーズ船の来航（年間5万人以上）
店舗のキャッシュレス対応が十分でないため、
消費機会を取り込めていない



- ALIPAY
 - Apple PAY
 - ICカード
- etc

市民

現金での公共料金の支払いが面倒で不便である



2030年

外国人旅行者（インバウンド）

店舗が気楽にキャッシュレス決済を導入できて、
外国人観光客が買い物を楽しめている



様々なキャッシュレス決済が可能

- ALIPAY
 - Apple PAY
 - ICカード
- etc

市民

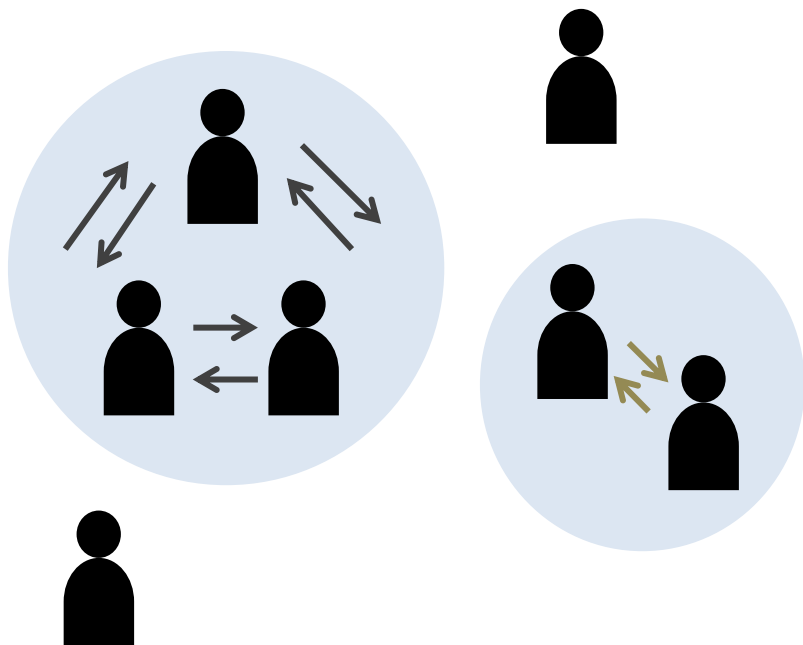
キャッシュレス決済で安心安全・便利に暮らせる



一度の決済で、しかも現金を扱わなくて
すごく楽になった

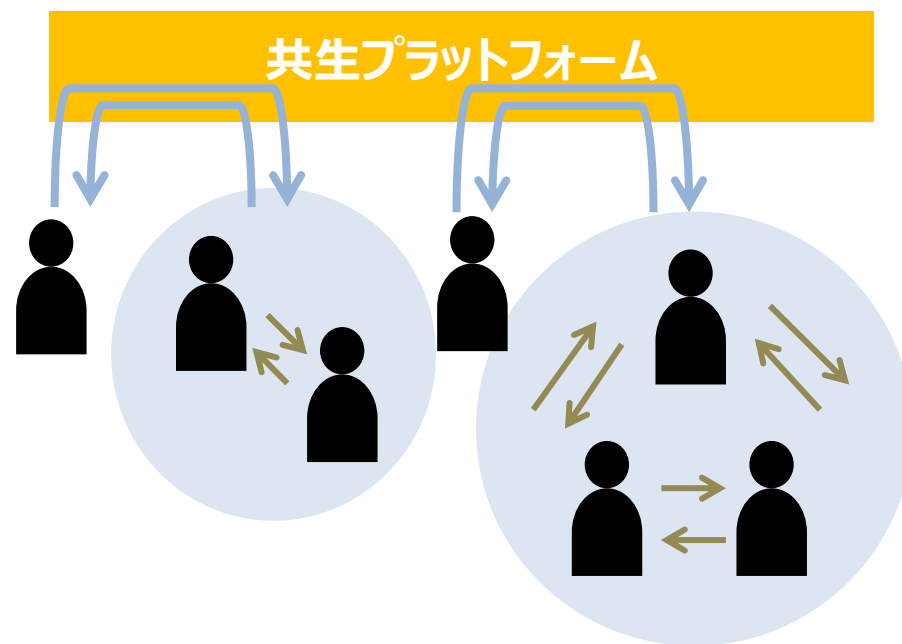
現在

少子高齢化の加速、共働き世帯の増加で、人の手を借りたいニーズは高まっているものの、昔のように周囲の人に頼れず、特定の限られた人同士のつながりになっている。



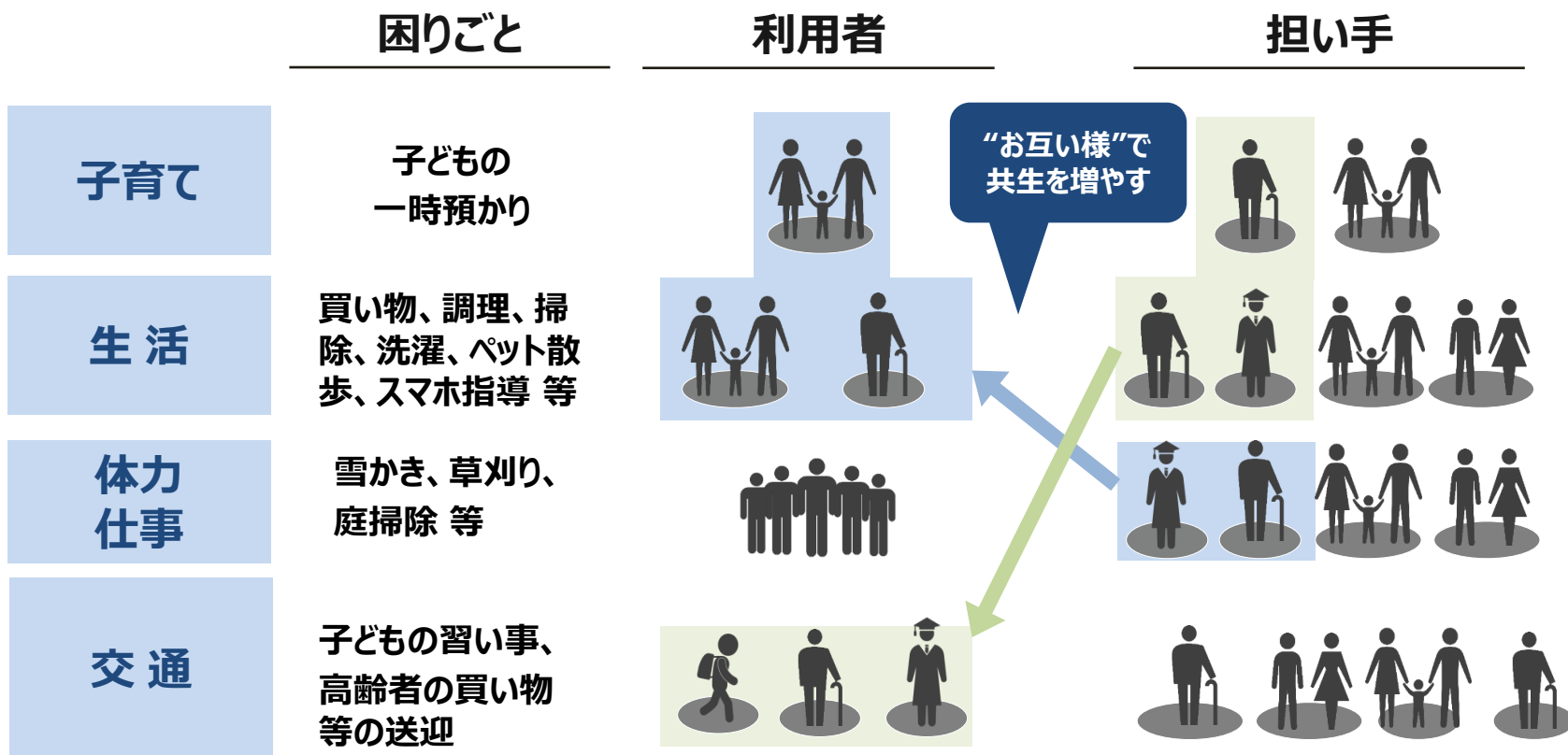
2030年

市内の人と、安心して簡単につながれることで人と人、人とコミュニティ、コミュニティとコミュニティが簡単に繋がる仕組みができることで、できることがさらに増える。



困りごとを持つ「利用者」とそれを解決する「担い手」を結びつける仕組みを作る

共生のしくみイメージ

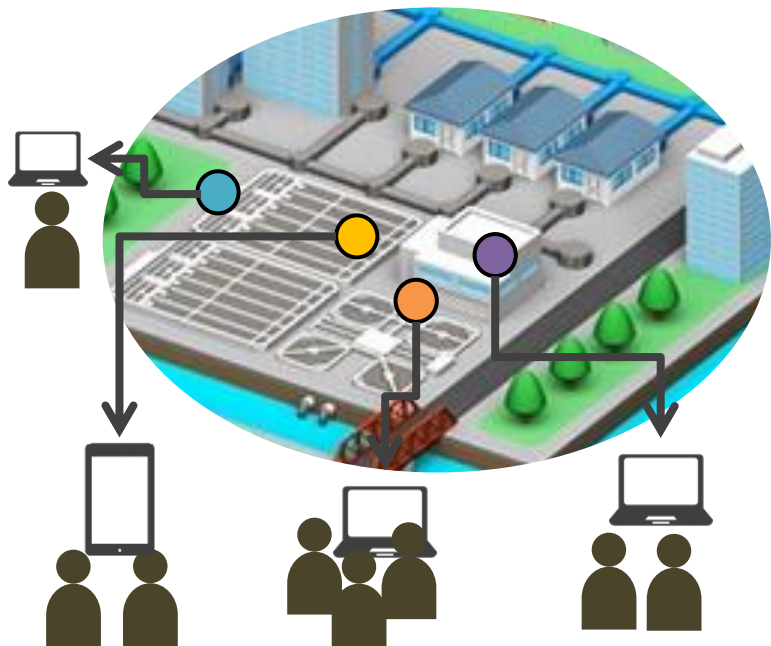


現在

土木インフラ見守りは限定的で、
監視業務はヒトに依存

現在の監視範囲：下水道

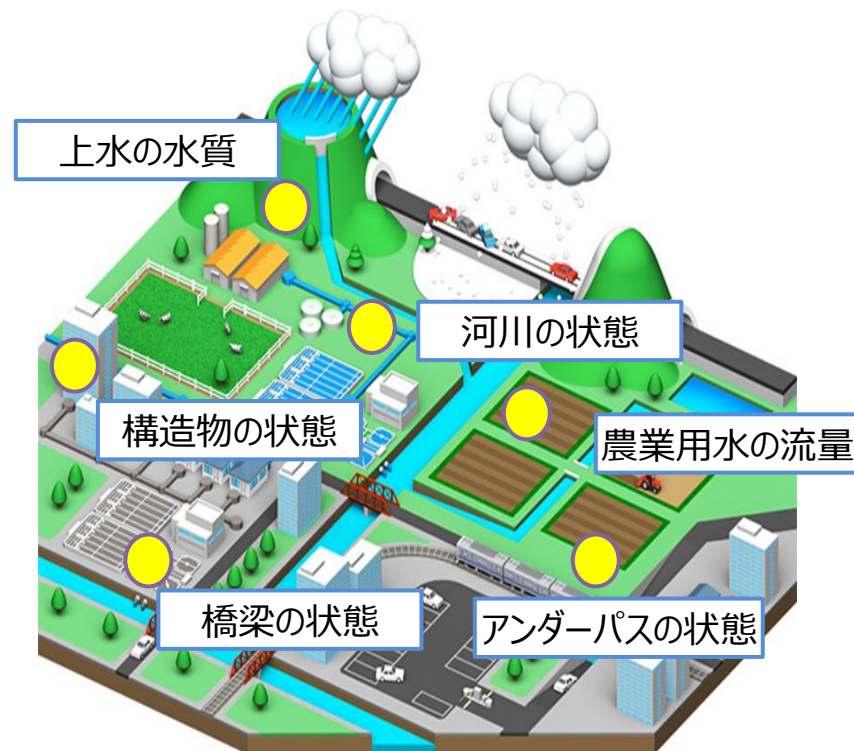
管渠、ポンプ、集落排水、下水処理場など、
下水処理工程ごとに監視方法が異なり、監視する職員がいる。



2030年

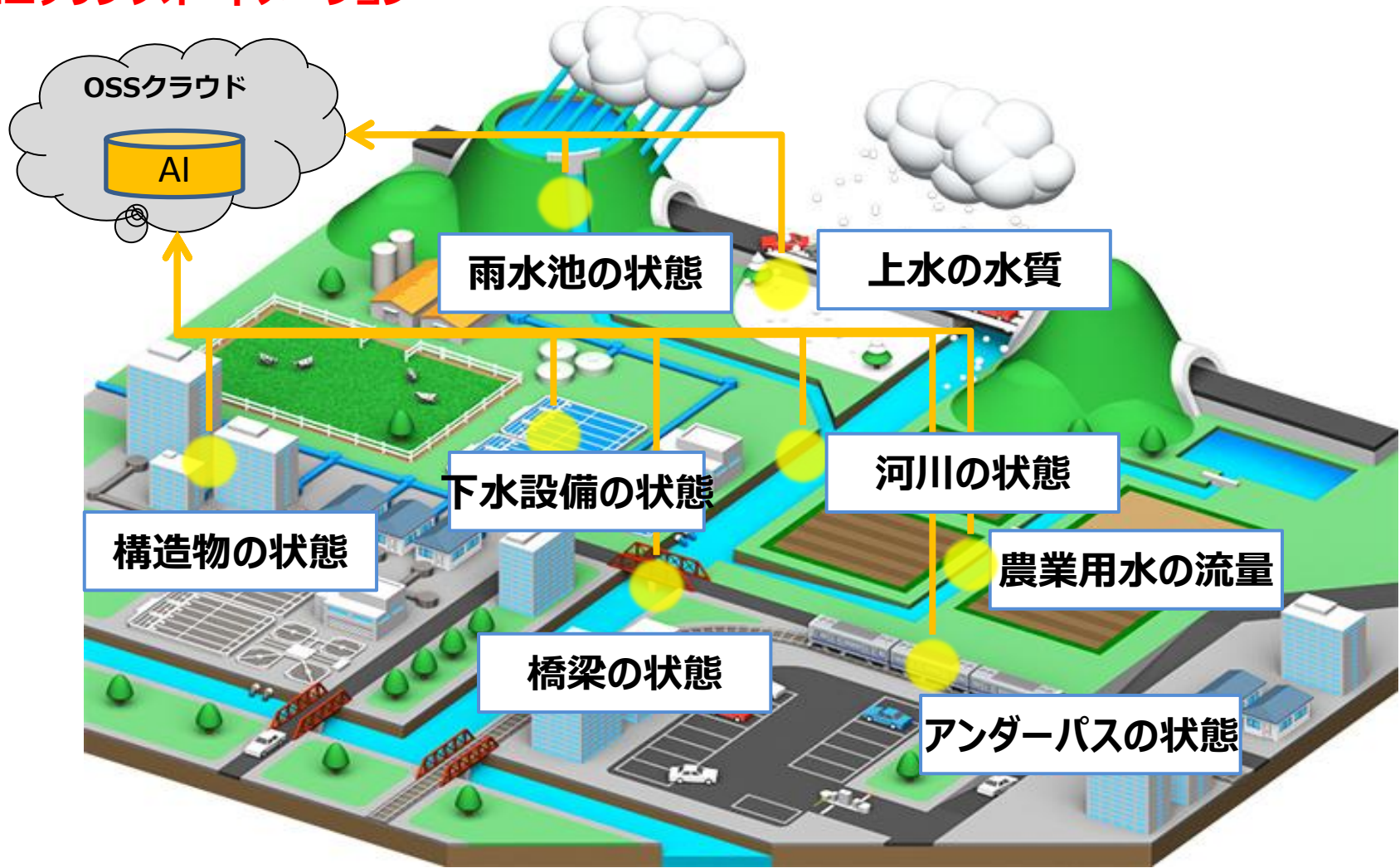
人に依存せず、河川や橋梁、アンダーパス
(立体交差) など街全体の見守りに拡大

監視範囲：街全体



AIによる診断・予測による
モニタリングオートメーション

用途に合わせた多様なセンサを提供



若者 “ITスキルをもつ若者が、市内の課題解決とIT産業創造を担う舞鶴”を目指す



舞鶴市

“進学を機に**若者が舞鶴へ戻ってこない**”
“若者が市内に残らない”



市内産業（ヒアリング結果）

“人はいないこともないが、**仕事ができる「人材」がない**”
“仕事を取りにいく人員もないし、人材不足で事業拡大もできない”

先進地調査、
ヒアリング実施

地域活性化先進地、ミーティングより（鯖江市、江津市、OMRON）

“課題解決に取り組んだ結果、課題が一転し、まちの強みになっている”

“**域内でIT人材を育てており**、多くの企業が協賛している”

“ITは業種にもよるが、ネットとPCさえあればどこでもできる”



理由：Society.5.0（再エネ、キャッシュレス、モニタリングなど）実現に必要な基礎的能力だから

ITスキルを持った若者を育成することで、以下のような結果が想定できる

- 1 Society.5.0を実現する人材が誕生する。
- 2 上記人材が域内で活躍し、市内のコミュニティ・産業が抱える課題を解決する。
- 3 Society.5.0を実現する企業や、土地を選ばないIT事業が、地域産業として根付く。

若者 まずは市内若者のITスキルを育成し、将来的には域外からIT人材の流入を狙う

- ①十分な時間をかけ、域内の若者が起業したり、自らの力で既存の産業を活性化できる環境を作る
- ②新たな産業としてIT業界に着目し、域内の人材の教育、域外の人材の呼び込みを狙う

現状

- 域内で人材不足、スキル不足
- 生産の自動化・効率化が不十分
 - 事業の効率化が不十分
 - SNSやWebコンテンツの十分な利用ができていない

Step.1

- 域内でIT人材を育成し
域内で活躍してもらう
- 既存ソフト・アプリの活用
 - 既存産業の効率化
 - 事務仕事の効率化
 - 販路拡大
 - 稼ぐ能力を伸ばす

Step.2

- 域内でのIT業界の産業化
- IT企業の進出
 - サテライトオフィスの設置
 - コワーキングスペースの活用
 - 都市部のビジネスマン・技術者と域内のビジネスマン・技術者の交流、コミュニティ形成

Step1.5

- 力試しの場への参加
(コンテスト開催)

IT教育で域内人材の
スキルを底上げ

域外からの人の流入を狙う